

重要無形文化財結城紬伝承事業のための 絣設計図案作成

【背景】

茨城県結城市と栃木県小山市を中心として生産されている結城紬は、代々技術が受け継がれている伝統的な絹織物です。その生産工程の一部である「糸つむぎ」「絣くくり」「地機織り」の3工程の技術は昭和31年に国の重要無形文化財に指定され、また平成22年にはユネスコ無形文化遺産にも登録されています。

本場結城紬技術保持会では、その貴重な結城紬の生産工程技術の維持継承を目的として「伝承者養成事業」に取り組んでいます。しかし、「絣くくり」の工程においては、その図案の作成に専門的な技術・機器が必要であり、伝承者養成事業参加者の技術レベルに沿った図案の作成が困難なことから、絣設計図案の制作について依頼を受けました。

【支援内容】

繊維高分子研究所でデザインソフトを利用し研究開発した「絣設計図案作成システム」(図1)の技術を用い、本場結城紬技術保持会から提供されたモチーフ案を元に、亀甲柄の分量、配置、絣柄の接続部分など絣製織研修者及び絣括り手の経験や技量を考慮した絣設計図案6点を作成し、提供しました。

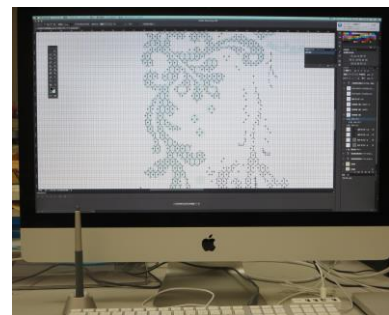
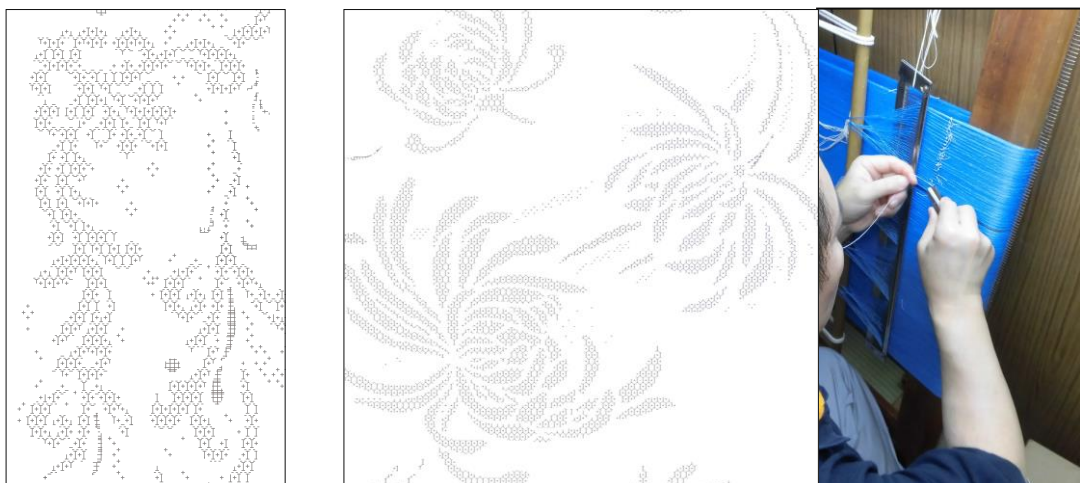


図1 絣設計図案作成システム

【開発した製品の紹介】

現在、本場結城紬技術保持会では、今回作成した絣設計図案(図2)を利用し、技術者育成に取り組んでいます。なお、この事業によって織られた反物は、本場結城紬技術保持会の事業成果報告(令和2年3月頃)や産地内催事で展示される予定となっています。



(左: 160 飛び絣括り研修者用 右: 100 細工絣括り研修者用 研修風景)

図2 作成した絣設計図案 部分拡大

基礎となった事業	令和元年度 オンリーワン技術開発支援事業(受託研究)			
現在の担当グループ	繊維・紬G	グループ長	篠塚 雅子	TEL:0296-33-4154
		主任研究員	中野 睦子	